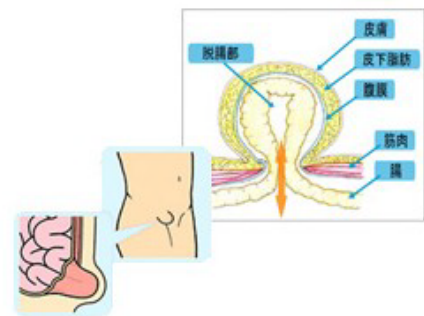


鼠径ヘルニア（脱腸）について

鼠径ヘルニアとは、いわゆる脱腸のことです。「鼠径」とは、太ももの付け根の部分のことをいい、「ヘルニア」とは体の中の腸や脂肪などの組織が正しい位置からはみ出した状態のことをいいます。鼠径ヘルニアは子供の病気だと思われがちですが、乳幼児から高齢者まで広く起こり得る病気です。乳幼児の場合は先天的な理由によるものですが、成人の場合は加齢により身体の組織が緩んでくるのが原因で、40代以降の男性に多く起こる傾向があります。



鼠径ヘルニアの症状

初期のころは立った時やお腹に力を入れた時に、太ももの付け根付近の皮膚の下に柔らかい腫れが出てきますが、指で押さえると引っ込みます。最初はピンポン玉くらいであったものが、時間がたつにつれて大きくなってきます。この腫れが急に硬くなったり、腫れた部分が押さえても戻らなくなることがあり、この状態を嵌頓（かんとん）状態といいます。鼠径ヘルニアを放置していると、嵌頓（かんとん）状態となり、腸閉塞をおこしたり、締めつけられた腸に血液が流れなくなり、腸の組織が壊死してしまい、緊急手術が必要になり、生命にかかわることがあります。嵌頓（かんとん）はいつ起こるか予想できません。これを予防しておくという意味では手術をして修復しておく必要があります。

鼠径ヘルニアの治療

鼠径ヘルニアは、手術以外に治す方法はありません。手術の方法は、近年開発された人工補強メッシュで穴をふさぐ方法で行います。通常3~4cmの傷があれば、このメッシュシートを挿入することが可能です。当院では半吸収性のメッシュを使用するため、従来のメッシュに比べて術後の違和感が少なく、吸収糸で皮下を縫合するため、抜糸の必要もなく傷が目立ちません。

鼠径ヘルニアの手術

手術前日午後に入院して頂き、手術は腰椎麻酔で行います。手術時間は30~40分です。約5日間の入院で退院されるというのが当院での平均的なコースです。入院期間は痛みの具合などにより、個人差があります。術後約1カ月は重いものを持ちたり、激しい運動をすることはできません。手術費用は5泊6日の入院で5~6万円（3割負担の場合）です。脱腸の症状があり、手術を考えている方は、一度診察をお勧めします（担当：南有紀子医師、火・金・土：午前、木：夜）。